

事例研究報告

高等部生徒の就労を目指した
学校での滞在時間を延ばすための
方法と関わり方



生徒の実態

・高等部生徒

注意欠陥多動性障害、自閉症スペクトラム障害

・集会などの大勢の人の声や視線、音の響きには不安定になりやすい。

・口頭指示だけで簡単な内容であれば理解できる。

・作業は得意であるが座学や待ち時間のある授業には不安になりやすい。

・視覚化することで伝わりやすく、行動することができる。

・自分の気持ちや考えを特定の教員には伝えることができるが、人の意見に流されやすい。

・就労に対する具体的な意欲は伝えることができる。

保護者の願い

毎日登校してほしい。
就職してほしい。
自傷とオーバードーズが心配。



教員の願い

現場実習に向けて毎日登校してほしい。
自分の気持ちや体調を教員に伝えてほしい。
授業に出席する方法を選択して伝えてほしい。



アドバイザーからの助言

○行動チャートについて

活動に取り組めない時の行動チャートは具体的で視覚的にわかりやすく本人に伝わっている。いつでも見れる状態に置き、不安な時に本人と確認する。

○出席記録シール帳について

本人以外の人にも登校状態（滞在時間）がわかる。視覚的にわかりやすい出席記録シール帳を使ったやり方をこのまま続けていく。

アドバイザーからの助言

○自傷とオーバードーズの件について

注意引きや逃避というよりもストレスコーピング(ストレスがかかったときにスッキリする)の自傷行為のように感じる。

○問いかけの仕方について

「なぜそうしたくなるの?」「スッキリするんだね」「あなたに必要な方法なんだね」「別の方法でやってみる?」等の前向きな方向で自傷以外でスッキリできる方法を見つけられるようにしてあげるとよい。

助言を受けての見直し

○自傷やオーバードーズの把握について

週1でも「自傷やオーバードーズしたことあった?」「辛いことがあったんだね?」と欠課にならない時間があれば聞いてあげる方が良い。

(自傷やオーバードーズ以外でしていることがあるかもしれない。「今はどう?」「昔はどうだった?」と以前のことも振り返られるかもしれないため。)



助言を受けての見直し

○記録の仕方について

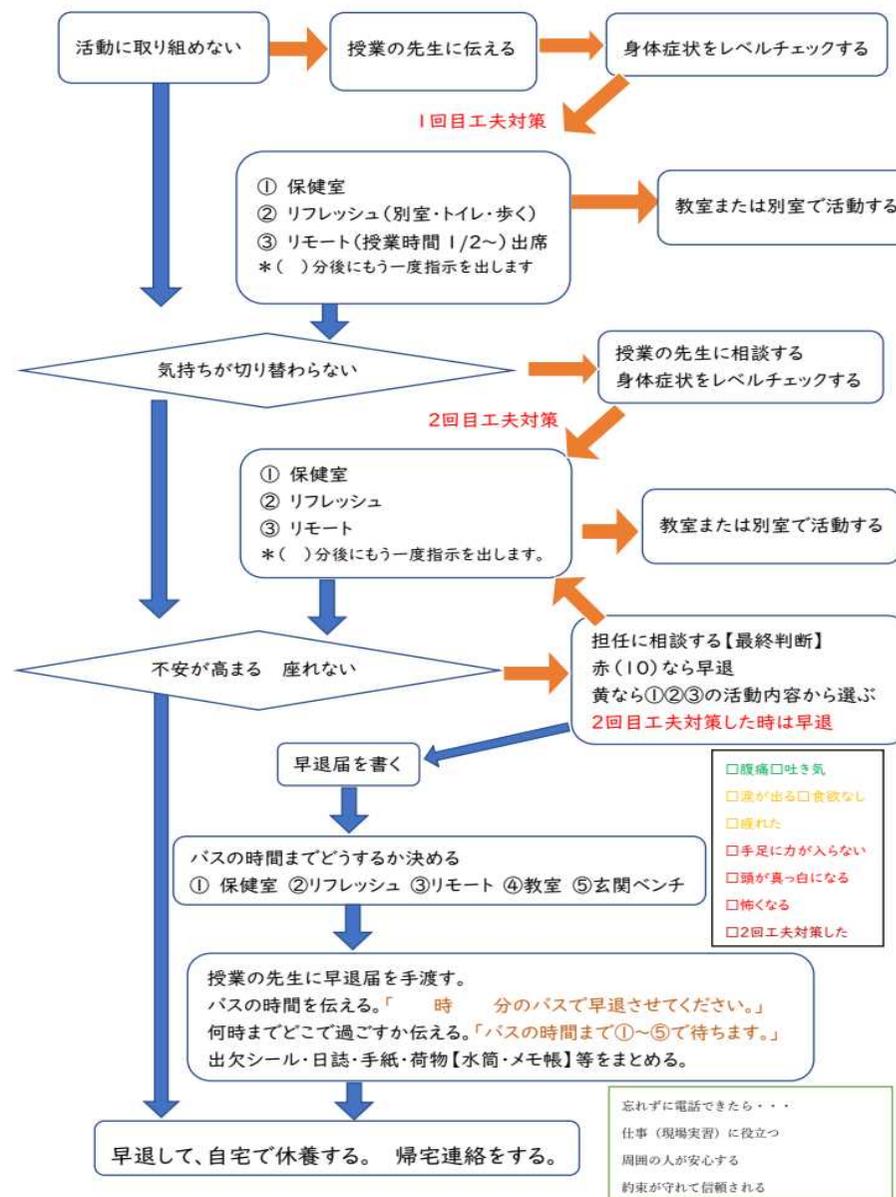
- ・自発的にシール帳やチャートが使えたかどうかの記録は不要。
- ・欠課時数を減らして登校滞在時間を延ばす記録を優先する。
- ・グラフが安定してフラットになるようにする。
- ・登校できない時は理由を記録してフィードバックする。
- ・母にも連絡帳や電話で共有する。
- ・担任以外でも手続きや記録の仕方を共有する。

指導の手続き

①行動チャートの更新

個別の学習室で活動に取り組みなくなった場合のチャートに変更

(1時間でも良いので毎日登校する意味と就労に向けた滞在時間の説明をする。)



指導の手続き

②行動の視覚化

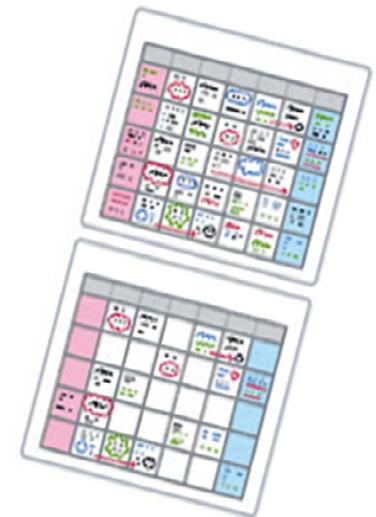
- ・出席記録シールや入室届と早退願いは自分で用意する。
- ・大切なことは目立つ色付箋で伝える。
- ・出欠や登校状況の連絡はスマホのTeamsチャットを使う。



指導の手続き

③持ち物の簡略化

- ・日誌をファイル形式からスケジュール帳形式に変更した。
- ・行動チャートも縮小しスケジュール帳表紙裏に添付した。
- ・スマホにTeamsを入れた。



記録方法と記録



○1日の関わり方

- ①登校後、担任と予定の確認と授業のスタート場所を知らせる。
- ②不調を訴えてきたら理由を聞く。
- ③個別学習室でリモートか保健室休憩か下校かを選択させる。
- ④下校前に今後の予定と宿題や日誌の確認をする。

※不調の内容によって他教科の担任にも情報共有と本人との相談を依頼する。

記録方法と記録



○1日の関わり方

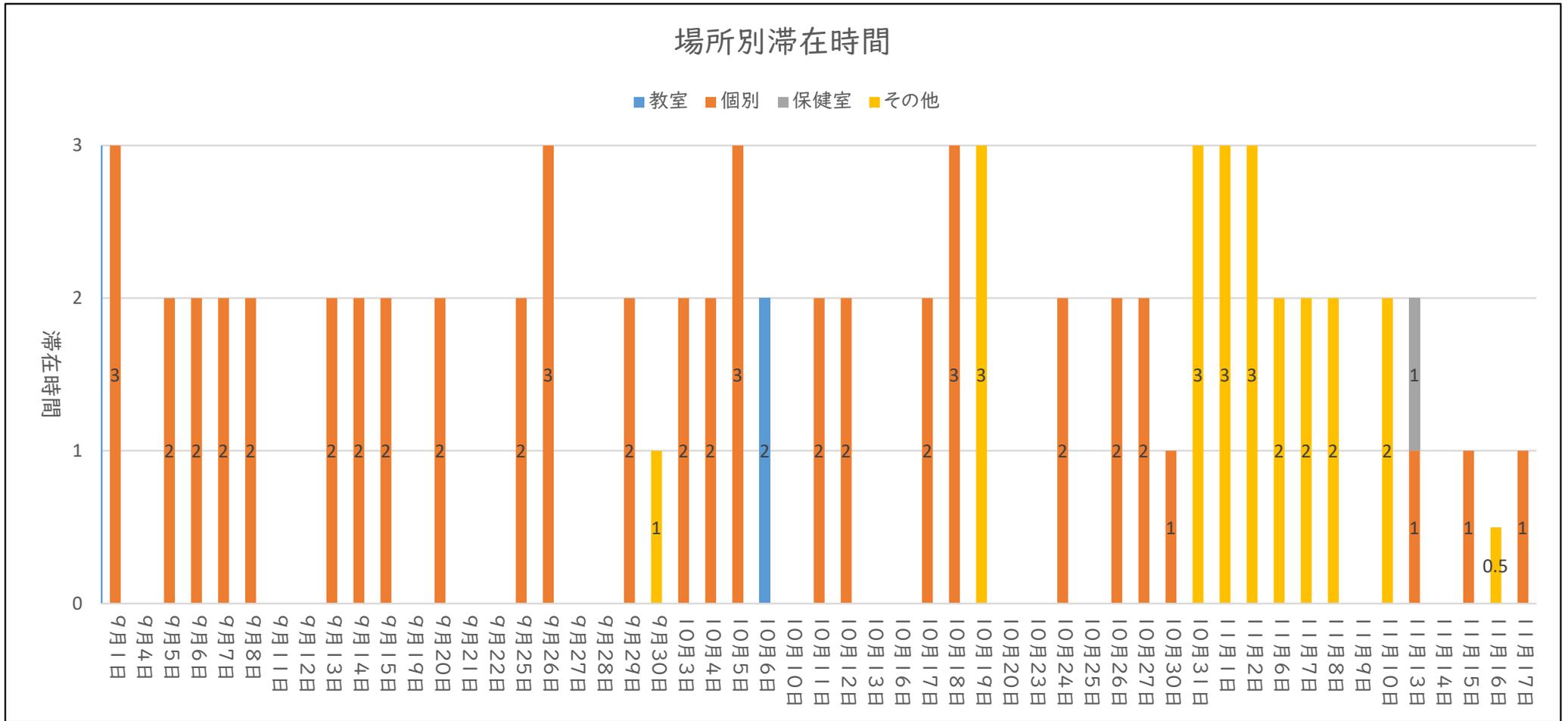
- ⑤登校できたことを認め、何時のバスで下校したいかを聞く。
- ⑥登下校の手続き(入室届／早退届)を書くように促す。
- ⑦連絡帳に様子を記録し、配付物や宿題を渡す。
- ⑧帰宅連絡等はTeamsのチャットで行う。

記録方法と記録

【行動チャート】行動チャートを使って、生徒が過ごした場所を記録する。保健室利用の回数をカウントする。

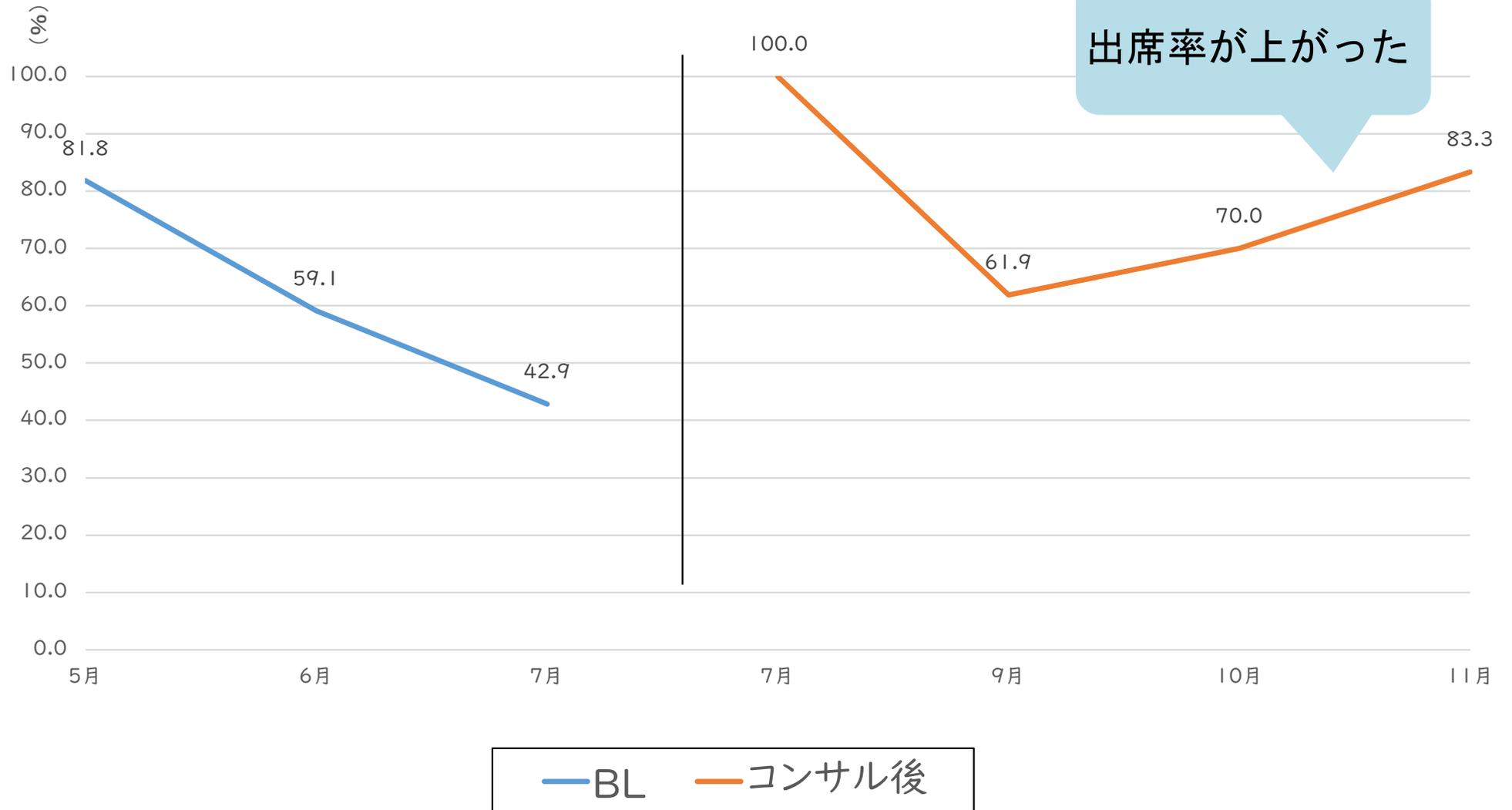
【グラフ】滞在時間の記録を1から3時間で取る。個別学習室でリモートで過ごす(全1)保健室で過ごす(全1)時間の中で移動があれば0.5、欠席の時は0として積み上げの棒グラフで表示する。

滞在時間のグラフ



指導の成果

出席率



指導の成果

1. 登校から下校までの流れを理解して行動できるようになった。

- ・登校してから帰宅連絡までの1日のスケジュールが定着

2. 就労を目指した登校と現在の心身の状況が理解できるようになった。

- ・体調や欠席に対する自分の気持ちを相談できた。
- ・接客検定を受検することができた。
- ・校内実習や現場実習に参加できた。
- ・体調に合わせて授業に参加できている。
- ・保健室利用が減った。
- ・シールを使って滞在時間の見通しが立った。

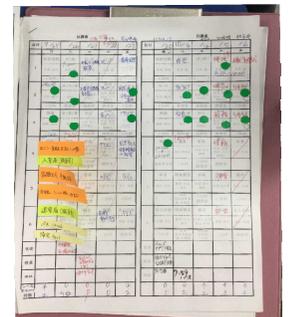


ここが成功のポイント

1. 行動チャートで登校から下校までの流れがわかりやすくなったこと。



2. 出席記録シール帳で滞在時間と登校日数が、見て確認できるようになったこと。



3. 生徒の気持ちや思いを確認しながら、他教科の担当者とも指導を進めていったこと。